

## 国指定名勝 ピリカノカ 襟裳岬（オンネエルム）

ピリカノカとはアイヌ語で「美しい・形」を意味し、アイヌの物語や伝承、祈りの場、言語に彩られた優秀な景勝地群を総称するものです。

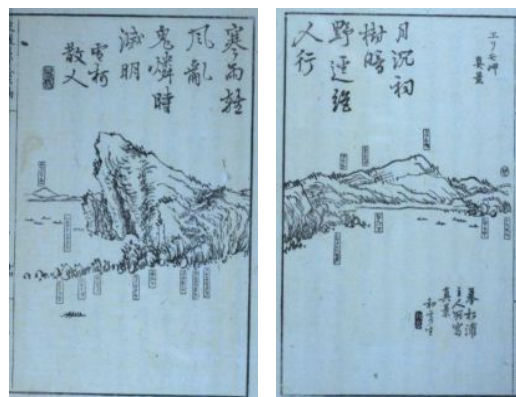
**襟裳岬は平成22年(2010)8月5日、ピリカノカに指定されました。**



襟裳岬

襟裳岬の名の由来は、アイヌ語のオンネエルム、「大きな・突き出たところ」を意味しています。また、エルムは「ねずみ」を意味し、海面に点在する岩礁を、ネズミが飛び跳ねている尾の動きをイメージしているとの説もあります。

### アイヌ語地名が残る



北海道大学付属図書館北方資料室蔵

襟裳岬先端の岩礁には名が付けられており、北海道の名付け親ともいわれる江戸時代の探検家・松浦武四郎の著作「東蝦夷日誌」(1857-58)には、ダイナミックな襟裳岬とアイヌ語地名が記録されています。(図参照)

### カムイノミをする場所

江戸時代、襟裳岬を訪れた荒井保恵は「東行漫筆」(1809)に、「襟裳岬においてアイヌはカムイノミ(神への祈り)をする。(略)襟裳岬では弁財船の乗組員は神酒を捧げ、草で船を作り流すという。」と記載しています。

### 先端の岩礁ではコンブを採らない

松浦武四郎は著書「戊午東西蝦夷山川地理取調日誌」(1858)に「モノク子(岩礁帯先端部の岩礁)にコンブが多く生えているが、アイヌなどはエリモさまのお髭だとして、昔から採取することはない。」と記載しています。

□ 指定範囲は、襟裳岬の崖と岩礁、周辺海域の197.6haです。

\* お問い合わせ: えりも町教育委員会生涯学習課文化財係 (erimomus@cocoa.ocn.ne.jp: 郷土資料館)